大学卒業後すぐに岐阜県へ就職された先輩から

Ｑ１．岐阜県に入庁したきっかけは？

学生時代に大学の公衆衛生学教室でアルバイトをしていました。あるとき、教授から「臨床以外にも行政という道もあるけど、どう？」と声を掛けられ、当時の保健所長の先生方にもお話を聞いて、岐阜県への就職を決めました。

Ｑ２．岐阜県以外の道は考えましたか？

５年生くらいまでは、臨床を目指していました。もし、教授に声をかけられなかったら、今頃は臨床医をしていたと思います。教授からは「岐阜県のほかにも、厚生労働省や岐阜市もあるけれど、君は県が向いていると思うよ。」と言われたのがきっかけで県を選びました。

就職してからですが、国の技官の多忙さ、市の業務の範囲の広さなどを知ることとなり、一つの業務をしっかり理解しながら業務に当たることができる県は、やはり自分にあっていたと思います。

Ｑ３．岐阜県に勤めてみて、岐阜県の特長や強みは？

まず「広い」。飛騨保健所が所管する面積は富山県より大きいですし、雪も岐阜とは比べ物になりません。そうかと思えば、東濃保健所では時々、日本一暑いと言われたりして、地域ごとに様々な暮らしがあることに気付かされました。

保健所は７つありますが、先輩の保健所長さん方がそれぞれにいらっしゃり、各保健所を異動されてきていらっしゃるので、地域ごとの特徴や事業の経緯といったことを聞くことができる、そういった職員同士のつながりの良さが強みだと思います。

職場の雰囲気的に、自分のライフスタイルに合わせて、年休が取得しやすかったりするところも、魅力だと思います。

Ｑ４．公衆衛生の面白さは？

臨床にいると、初診時にはすでに重度の糖尿病になっていらっしゃる患者さんに出会うことがあります。

そういった方々と出会うたびに「もう少し早く医療機関を受診してくれれば。」「生活習慣をもう少しよくしていれば。」と思うことが常だと思います。

公衆衛生では、予防と早期発見に力を入れていますから、微量アルブミンの測定や糖負荷により早期の段階で糖尿病を見つけ、医療機関につなげることができ、その結果を統計の形で見ることができることが面白さだと思います。

Ｑ５．若い先生方へメッセージをお願いします。

公衆衛生を職業にしている先輩医師は身近にいないでしょうから、なかなか、この道を選ぶには勇気がいると思います。

しかし、実際に就職してみると、ワークライフバランスの良さや楽しさを感じてもらえると思います。

職場見学会なども随時開催していますから、まずは一度、話だけでも聞きに来て

もらえたらと思います。